

令和6年3月



後期学校評価アンケート 結果と分析

京都市立北総合支援学校中央分校

令和6年度 後期学校評価アンケート にご協力いただき、ありがとうございました。

- ◇ 実施期間 令和7年1月13日（月）～1月22日（水）
- ◇ 対象者・回答率

	保護者			教職員	児童生徒		
	小	中	高		小	中	高
対象者数 (人)				76	24	18	36
	77				77		
回答者数 (人)	32			62	6	3	11
					20		
回答率 (%)	41%			82%	0%	0%	50%
					23%		

◇ 分析・表示方法

- ・4つの選択肢（よくできている、大体できている、あまりできていない、できていない）の総数に対して、「よくできている」と「大体できている」を合わせた“肯定的な回答”的数値を、保護者・教職員・児童生徒や、各項目間で比較し、分析します
- ・成果や課題を把握しやすいように、90%以上を黄緑（できている）、80～90%未満は白、80%未満は赤（できていない）で表示します
- ・前期と±10%以上の開きがあるものについては（　）下記で数値を記します

0 【全体】※大項目内の平均値

目指す児童生徒像	保護者	教職員	児童生徒
1 健やかな身体をつくる	93.8	94.4	86.0
2 元気にあいさつをする	97.9	98.4	92.5
3 考え、工夫し、生き生きと表現する	97.7	92.7	93.8
4 願いや夢を持って心豊かに生きる	88.5 (+7.9)	81.2	88.0
5 役割を担い、役に立とうとする	89.8	85.9	85.0
6 他者とともに生き、学び合う	90.6	93.5	91.7
(7 全体)	92.2	94.4	

※保護者、教職員、児童生徒の肯定的な評価の合計平均は 90.9% でした。（前期より +0.3）

- ・後期の学校評価アンケートは Forms に加え、全家庭に紙でも配布しました。保護者の回答率が12%増え41%になりました。ご協力ありがとうございました。
- ・保護者、教職員、児童生徒の、肯定的な評価の合計平均が上がりました。アンケート結果を踏まえ良いところはさらに継続、発展させていきたいと思います。
- ・前回と比べると保護者の数値は上がってはいますが、大項目の4と5が他と比較すると低いことがわかります。すぐに解決できることばかりではありませんが、まずは課題を把握しておくことが大切だと考えます。家庭、学校が連携して改善していきたいと思います。
- ・目指す児童生徒像の大項目別で見ると、保護者・教職員・児童生徒とも、どの項目も概ねバランスよく肯定的な回答がありました。前期では4の項目に保護者と教員の回答に 7.9 ポイントの開きがありましたが、向上しました。

1【健やかな身体をつくる】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者	教職員	児童生徒
1 児童生徒は、自分の身体や心を大切にしようとしている	①手洗いやうがいを毎日していますか	87.5	93.5	95.0
	②早ね早起きをしていますか			85.0
2 学校は、健康維持や体力づくりに関する取組を十分に行なっている	③ランニングやからだの学習などで、けんこうながらだづくりをしていますか	93.8	96.8	90.0
	④ふあんな時やしんどい時に、自分のきもちをまわりの人につたえていますか			70.0 (- 13.3)
3 校内や教室は、清掃され、衛生的である	⑤学校や教室のそうじやかたづけをしていますか	100.0	93.5	90.0
4 学校は、教材や備品の整理整頓、安全、事故防止に配慮している		93.8	93.5	

- ・1【健やかな身体をつくる】については、1~4すべての項目において保護者・教職員・児童生徒の全てにおいて高い評価になりました。
- ・後期は小学部、中学部の児童生徒もアンケートに回答してくれました。設問④の心理面については、今後も、教職員の日々の関わりや「保健の日」の取組、必要に応じたスクールカウンセラーの活用などにより、児童生徒の心理的な安定と適切に表出する力を高めていきたいと考えます。言葉で伝えることが難しい場面もあるかもしれないですが、教職員が常に児童生徒の目線に立ち、どういう心境なのかを想像して関わることが大切だと考えます。

2【元気にあいさつをする】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者	教職員	児童生徒
1 児童生徒は、自分なりの方法であいさつをしていく	①自分からあいさつをしていますか	96.9	98.4	95.0

2 学校は、児童生徒が自分なりの方法であいさつできるように取り組んでいる		96.9	96.8	
3 教職員は、適切な言葉遣いや態度で児童生徒・保護者・来校者に接している	②先生は、人にあいさつをしたりていねいにかかわったりしていますか	100.0	100.0	90.0

- 挨拶に関するこの質問項目群では、保護者・教職員・児童生徒ともに、高評価を得ています。校内では、ワークスタディや個別課題等で学級、学年以外の人と関わる場面が設定され、今年度初めて会う教職員にも少しづつ慣れ、職員室へも自分なりの方法でしっかり挨拶して来室する場面がしばしば見られるようになりました。
- 挨拶には、相手の存在に気付く力や、相手とコミュニケーションをとろうとする姿勢が必要です。今後も、教職員が挨拶をする姿を見せたり、児童生徒に挨拶を促したりして、児童生徒それぞれに合った表現方法や発信する力、人と関わる力を高め、社会性の向上につなげていきたいと考えます

3 【考え、工夫し、生き生きと表現する】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者	教職員	児童生徒
1 児童生徒は、考え、工夫し、生き生きと学習に取り組んでいる	学校の学習で「できた！」「やった！」とかんじますか	93.8	93.5	80.0
2 教職員は、児童生徒が考え、工夫し、生き生きと学習に取り組めるように授業や教材を工夫している	先生はわかりやすくおしえてくれますか	100.0	91.9	100.0
3 学校は、児童生徒が生き生きと主体的に取り組める授業や取組、行事を設定している	学校生活はたのしいですか	96.9	93.5	95.0

4 教職員は、児童生徒の学習や取組の成果・努力を適切に評価している	先生は、がんばっていることやできたりことをみとめてくれますか	100.0	91.9	100.0
-----------------------------------	--------------------------------	-------	------	-------

- この質問群に関しては前期と同様、全ての項目において高い評価になっています。学校教育目標「自分から自分で自分らしくみんなとともに学び合う子どもの育成」のもと、「個別の包括支援プラン」に基づいて、教え込む授業ではなく、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを継続し、人と関わる中で喜びや楽しみを感じてほしいと思います。そうすることでQOLの向上や、充実した社会参加を目指したいと思います。

4 【願いや夢を持って心豊かに生きる】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者	教職員	児童生徒
1 児童生徒は、願いや夢に向かつて生き生きと学習している	わからないときは自分から他の人にすすんでいますか	75.0	85.5	85.0
2 「個別の包括支援プラン」は、本人および保護者の「願い」「目指す姿」の実現を目指したものになっている	学校生活は、なりたい自分になるためにやくにたっていますか	96.9	79.0	75.0 (- 19.4)
3 保護者、担任、授業担当者で児童生徒の実態や目指す姿、学習内容を共有している		93.8 (+19.9)	79.0	

4【願いや夢を持って心豊かに生きる】については、保護者・教職員・児童生徒の評価が70ポイント台と低い傾向になっています。

- 本人の願いや夢は捉えにくい場合もあります。日々の連絡帳や電話連絡の際のコミュニケーションも大切な機会と捉え、様々な姿を共有することが大切です。また、願いや夢は様々な経験をすることで広がり、具体的になってくるのではないかと考えますので、学習活動も具体物に触れたり、様々な体験学習も大切にしたいと思います。
- 個別の包括支援プランは、児童生徒本人が、「何を」「どのように」「何のために」目指していくのかを明確にするための支援ツールです。大項目4の評価が低い傾向にあるということは、作成の工程、内容、活用・見直しの手順のいずれかに課題があると考えます。この課題は教職員全体で共有し、有意義なものするために改善を目指します。

5【役割を担い、役に立とうとする】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者	教職員	児童生徒
1 児童生徒は、家庭で任された役割にやりがいを持って取り組んでいる		78.1 (- 13.2)	61.3	
2 児童生徒は、学校で任された役割にやりがいを持って取り組んでいる		93.8 (+15.5)	95.2	
3 学校は、児童生徒が役割を担うことで自己有用感が高まるよう活動の機会や場を設定している	まかされたことにせきにんをもってとりくんでいますか	96.9 (+18.6)	95.2	85.0
4 学校は、児童生徒の目指す将来の生活（進路）を見据えて、適切な指導および支援をしている		90.6	91.9	

- 役割活動に関する設問1は保護者、教職員ともに低い評価になりました。
- “家庭の場”での役割活動については、家庭はリラックスをする場であり、円滑な生活が優先であるため、児童生徒に役割を任せにくいことが表れていると考えます。家族の一員として家庭でも「やりがい」の積み重ねができるように、学校で頑張っている役割を家庭に移行しやすい学習活動を組み立てることも大切だと感じました。また、「任された役割」という言葉がいわゆる「家事・手伝い」のような捉えになってしまっているかもしれませんので、項目自体の見直しも検討が必要だと考えます。例えば着替えなどで協力動作を取れるなど、支援をスムーズに受け入れられたりすることも大切な力だと思います。有効な支援方法や本人の変容が見られれば学校と家庭で伝え合うなど連携を意識して進めていきたいと考えます。
- 学校では、学級活動や学習など様々な場面で、役割活動の機会を意識的に設定しています。新しい学校の環境へも慣れてきて、当番や係活動、日常のあらゆる場面で任せられたことに生き生きと取り組む児童生徒の姿が増えてきたように感じます。
- 進路指導に関する設問4については、前期では保護者と教職員の間に 9.5 ポイントの開きがありましたが、夏の施設見学会や、事業所フェアなどを企画してもらったことで、全学部の保護者にとって事業所の方や、進路担当の先生と話をする機会ができ、向上につながったのではないかと考えます。

6 【他者とともに生き、学び合う】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者	教職員	児童生徒
1 児童生徒は、友だちに親しみを持って、学校生活を送っている	友だちとなかよくすごしていま すか	90.6	96.8	90.0
2 学校は、児童生徒の社会参加に向けて、多様な人と関わる取組を設定している（校内、地域、交流学習及び共同学習）	かぞくや友だち、先生をたいせつにしていま すか	87.5 (+17.9)	90.3	100.0
3 児童生徒は、きまりや約束を守って学校生活を送っている	きまりややくそくをまもつていますか	87.5	95.2	85.0
4 学校は、児童生徒がルールや約束を守ることの大切さを学べるように指導している		96.9 (+9.9)	91.9	

- 【他者と共に生き、学びあう】においては、3者とも全体的に高評価となりました。今年は中央分校開校初年度で、新しく出会う友達、先生がたくさんいましたが、児童生徒は友だちや先生に親しみをもって学校生活を送っていることが分かります。学校という集団生活の場でトラブルは当然起るものですが、それをどのように乗り越えるか、ということも社会生活を送るにあたっては大切な学習だと考えます。現時点では高い評価になっていますが、他者との関わりの中で困りが生まれたときは教職員、保護者が一緒に支えていきたいと思います。
- 設問2の保護者の項目は、前期ではアンケート全体で一番低い評価でしたが、17.9%の向上になりました。多様な人と関われる力は進路選択の幅を広げたり、豊かな余暇生活を送ったりする上でとても大切であるから、今後も様々な活動場面を設定していきたいと思います。

7 【全体】

保護者・教職員 設問	児童生徒 設問	保護者	教職員	児童生徒
1 教職員は、本人・保護者の思いを受け止め、誠実に対応している		96.9 (+9.9)	93.5	

2 学校は、学年だ
よりや学校だよ
り、すぐーる、学
校ホームページ等
を通して学校の様
子を伝えている

87.5

95.2

- ・この質問群は、「目指す児童生徒像」にこだわらず、学校全体について評価する項目になっています。
- ・前期では設問1で約10ポイントの開きがありましたが、開校から時間が経ち、学校と家庭の良い関係ができてきたのではないかと思い、大変嬉しく思います。今後も日々の連絡帳、懇談会での話し合い、必要に応じた電話や家庭訪問等で、誠実に対応するように努めています。
- ・設問2の学校の様子の発信については、すぐーるによる授業や行事の様子を発信しています。ホームページでは全体の様子、すぐーるではより詳細な様子がわかるように、棲み分けて発信しております。学校教育活動の情報発信と説明責任を適切に実行し、「社会に開かれた学校」につなげていきたいと思います。またそれが、本校の児童生徒の社会的理解につながり、共生社会の実現につながると考えます。